#### 半世紀にわたる「問題」 を、 いま問い直す。

#### 答校 50

本田真陸さん、彦田来留未さん #42

方、

この5年は学校に行かない子どもたちにとって受難の歴史だった一

働き方などが、さまざまに問われてきた「問題」だったと言えます。

をめぐって、時代ごとにどんな状況があり、

た。いったい「不登校50年」の歴史は何を語るのでしょう。不登校

親の会やフリースクールなどの市民運動が立ち現れてもきまし

開始し、不登校経験者、親、 どう対応されてきたのでしょうか。

口

のご支援・ご協力をよろしくお願いします。

2 0 1

6年7月15

日

全国不登校新聞社

購読者に限定したものではなく、無料で公開します。そのため、プ カイブにしていきます。インタビュー・寄稿は、 教員、学者、弁護士など、さまざまな関係者の生の声を集め、 ジェクトは、 不登校新聞社では、「不登校50年」を機に、 寄付によって運営します。 親の会、 居場所・フリー ぜひ、 証言プロジェクト このプロジェクト 社会的意義を考え スクール、

する子どもは、学校制度とともに常にいました。 ながる「問題」として不登校が社会現象化してきたのは、この統計 1 9 6 6 学 校 基 本 今年はそれから50年にあたります。 調 査 で 学校 嫌 <u>ا</u> 0) 統 計 が しかし、 開 学校を長期欠席 始 言され 現在につ た 0) は

開始以降とも言えます。この50年、不登校は「問題」であり続けて

きました。それは、学校、教育行政、精神科医療、

家族のあり方

プロジェクトチーム (統括:山下耕平)

関東チーム委員:奥地圭子、木村砂織、朝倉景樹、石林正男、加藤敦也、佐藤信一、 須永祐慈、関川ゆう子、野村芳美、藤田岳幸、前北海、増田良枝、松島裕之、山口幸子 関西チーム委員:山下耕平、石川良子、貴戸理恵、栗田隆子、田中佑弥、山田潤

どのように問題とされ

#### まならない。みんなが騒いだり、 席の後ろからイヤなことをされたり

彦田

もう体はぼろぼろで、

気持ちも苦しかったです

奥地 とうございます。 何年生ごろからだったでしょう? わるなど、いろんなことを考えたり、 で、「不登校の子どもの権利宣言」(巻末に掲載)に関 それぞれの不登校体験からお聞きした 忙しいなかを来ていただいて、 来留未ちゃんが不登校になったのは おふたりは不登校を経験した当事者 活動されてきま

#### 転校先が学級崩壊で

校は、 彦田 ました。転校がきっかけです。 やがらせをしたりしていて、物がなくなったり、授業 新しい学校は、勉強、 ような状態でした。勉強の進みが速いのに、 みんなが張りつめていて、 けっこう楽しい思いで通っていたんですけど、 私は、小学校4年生の2学期から不登校になり いつも先生はイライラ怒っている感 勉強の雰囲気で、 それまで通っていた学 クラスは学級崩壊の 楽しい雰囲気

#### #42 本田真陸さん彦田来留未さん



(ほんだ・まりく)

1994年生まれ。中学校1年生から不登校。東京シューレに中学校2年生から 18歳まで在籍。アラスカ旅行の実行委員長として、企画、準備をした。「不登 校の子どもの権利宣言しの作成に参加。現在は、アフリカのために働くことを 考え、準備中。(写真左)

(ひこた・くるみ)

1989 年生まれ。小学校 4 年生から不登校。東京シューレに小学校 5 年生から 21 歳まで在籍。「不登校の子どもの権利宣言」の作成に参加。現在は、以前か ら好きだったイラストに力を注ぎ、絵本をつくっている。(写真右)

インタビュー日時:2018年4月25日

聞き手:奥地圭子、木村砂織 場 所:東京シューレ葛飾中学校

写真撮影:木村砂織

奥地 転校したときから、 そういう日常だったんです

遅くまで起きていて、 飯を食べられなかったり、 ばならないところなんだな、 たりしてました。夜は宿題をやらなきゃという思いで 1学期は一生懸命通っていたんですけど、 ここはすごく緊張して行かなけれ そういうことをくり返す状態でし それなのに、 不眠症のような状態になっ と思いました。春に転校 朝4時ぐらいには

たんでしょうね。 との状態で、安らかに眠れて 14

宿題は多かったんですか。

彦田

奥地

多かったです。問題が解けないし、あせればあ

せるほど、よけいにできないという悪循環で。

届けてくれたりしてくれたんですけど、もう私はぼろ だったと思います。日々、電話してくれたり、手紙を 校がめちゃくちゃで、先生も助けようにも難しい状態

のせいではない」と言っていたそうです。それほど学

- 4 -

彦田

なかったように思います。

はどうだったんでしょう。

けど、 彦田

校に行って、担任の先生と話したらしいんですね。だ ただ、私が学校を休んでしまったのは、「来留未さん 担任の先生も自分のことでいっぱいいっぱいで、

私が学校に行けなくなった最初の日に、母が学

くんに、こういうことをされた」とか話していたらし んとうにイヤだったことは自分のなかに溜め込むしか いんですけど、たぶん、ぜんぶは話せていなくて、ほ あとから母に聞いたところでは、家でも「○○ 90年代後半ぐらいのことですよね。 誰かに相談はしていましたか。 学校の先生 なかったりをくり返すんですけど、私は学校へ行か ちを察してくれました。その後、学校へ行ったり行か 奥地 行きたい」と毎日言ってたんです。 なきゃならないと思っていたので、 ているような状態を見て、何かあったんだろうと気持 **彦田** 母は、私が行けなくなって、布団のなかで泣 ぼろのような状態でした。 親はわかってくれましたか。 生きている価値はな

奥地 い」なんですね。 行かねばならないと思うところからの 「行きた

「学校に行きたい

行かないんだ」とは言わないんだけれども、私のほう うとしてくれていました。父は怒っていて、「なんで **彦田** そうすると、母は、その応援をしなくちゃと思っ は、父のいらだちを感じていました。 て、私を一生懸命守りながら、学校へ行く応援をしよ

「とにかく学校にもどって」という働きかけが強かっ も、担任の先生の対応が、それまでよりも厳しくて、

たんですね。「来留未さんのためを思っているんだよ」

学校だったので、学校や教育委員会に連絡して、

の学校だったら通えると思う」と言って、隣の地区

の学校にもどれるようにしてくれていたんです。で

いましたか。 その当時は、 行けない自分のことをどう感じて

分は大人にもなれないし、学校に行かないなんて、親 値がないと思って、それを母に言っていました。「自 も思い出しますね。 だ」と思っていました。そのときの気持ちは、 にもみんなにも迷惑をかけて、ほんとうにダメな自分 自分はダメだ、こんな自分はもう生きている価 いまで

奥地 その後、 家にいた期間はどれぐらいでしたか?

彦田 京シューレに行きました。ただ、その間には、私が 休み始めてから、ちょうど1年経ったころ、 前 東

> すか。 奥地 東京シューレには、どうやってつながったん

す。それを私には言わずに、守っていてくれていたん ら、すごくイヤなことをいっぱい言われていたそうで 思います。あとから聞いた話では、母は校長や教頭か 先生も、校長や教頭にいい顔したかったんだろうなと と、やさしいふうでありながら、いま思えば、担任の

ですね。でも、私は、しんどい学校に行かなきゃと思

完全に行けなくなりました。

いながらも、

した。 彦田 母が、 テレビで見た記憶があったということで

- 5 -

#### 肌の色のちがいで

か中1のときからですよね。 奥地 真陸くんは、どんな不登校体験でしたか。たし

本田 はい、中学生のころに学校に行かなくなったんですけど、それよりずっと前、幼稚園のころから、んですけど、それよりずっと前、幼稚園や小学校らというのも、自分がハーフで、肌の色や髪の毛がちがというのも、自分がハーフで、肌の色や髪の毛がちがらという理由でからかわれることが、幼稚園や小学校のころは、まわりの人も慣れてきて、自分はこういたいクラスにもなじめるし、多少、からかわれることがあっても、自分のなかでは、まあ、それくらいならいいかなぐらいのレベルで、ガマンできたというか、ちいいかなぐらいのレベルで、ガマンできたというか、ちりと納得していたように思います。

奥地 どんな小学校でしたか。

本田 自分の体感では、わりとふつうの小学校でしたけど、自分が4~5年生のとき、日本で初めて民間人が校長になった小学校でした。開かれた学校づくりとが校長になった小学校でした。開かれた学校づくりととを除けば、ふつうだったと思います。転校してないとを除けば、ふつうだったと思います。転校してないので比較はできないですけど。

ね。どうやってかわしていたんですか。 奥地 でも、からかわれることは続いていたんですよ

本田 クラス替えのたびに、からかわれてました。か本田 クラス替えのたびに、からかわれていたというのが、たぶん大きくて、幼稚園のころからですので、自分はそう言われるのが当然だと。いちいち反応しても盛り上がるだけだし、もし泣きでもしいち反応しても盛り上がるだけだし、もし泣きでもした。か本田 クラス替えのたびに、からかわれてました。か

学での不登校は、どうやって始まったんですか。 奥地 逆に、いろいろ笑われちゃうというか……。中

自分はバスケットボールが好きだったので、バスケ部に入ったんです。部活には上下関係があって、それ部に入ったんです。部活には上下関係があって、それが力に、自分のあだ名がボブになってしまって、最初かりに、自分のあだ名がボブになってしまって、最初かりに、自分のあだ名がボブになってしまって、最初かりに、自分のあだ名がボブになってしまって、最初かりに、自分のあだ名がボブになってしまって、最初かりに、自分のあだ名がボブになってしまって、最初たちに広がり、さらにバスケ部の上級生に広まり、最たちに広がり、さらにバスケ部の上級生に広まり、最初的には、ぜんぜん知らない2~3年生にまで広まってしまって、廊下ですれちがうたびに言われるようにてしまって、廊下ですれちがうたびに言われるようになったんです。

#### 奥地 それはイヤですねえ。

と思って、それから、その先生に不信感を持ち始めま 言ってくれたんです。それで、その先生は、部活の終 と、あまり気合を入れずに、学校でこんなことがある ど、自分の場合は幼稚園のころからだったので、すっ 親には言いました。おそらく、ほかの子だったら、 した。とはいえ、その一件から部活内でのからかいは 人であることをどうこう言っているわけではないのに 自分は、ボブと言われることがイヤなのであって、黒 トの選手って、黒人の人が多いよね」と言ったんです。 と思ったんですけど、その先生は、続けて「バスケッ と言ってくれたんです。そのときは「ああ、よかった」 わりに「もう、みんなには言ったから大丈夫だから」 なんて」と、親が怒ってくれて、学校の顧問の先生に、 と言ったら、「中学生にもなって、そんなことを言う りと勇気をもって言うようなところだと思うんですけ たです。先生にはちょっと距離を感じていて、ただ、 本田 もうどうにもイヤで、でも、先生には言わなかっ

ごろの話です。 んですが、わりと楽しい気がしてきたのが、5~6月んですが、わりと楽しい気がしてきたのが、5~6月まあ、みんなが飽きてきたとか、いろいろあると思うなくなって、自然とクラスのまわりでもなくなって、

# バスケは好きだけど部活は…

本田 でも、そのあと、その顧問の先生から、いやが 本田 でも、そのあと、その顧問の先生から、いやが らせというか、体罰が始まったんです。みんなとふざ らせというか、体罰が始まったんです。みんなとふざ らせというか、体罰が始まったんです。みんなとふざ た崩れてしまったんです。それで夏休みに入って、いた崩れてしまったんです。それで夏休みに入って、い ないよ僕は部活に行きたくないと思いました。

スケットボールが好きだから、やりたい。でも、夏休な扱いを受ける。それもまたシャクだし、そもそもバも、途中で変えたら「あいつ逃げて来たんだ」みたい部活は全員強制で、部活を変えてもいいとは言って

自分は怒られないし、そいつは怒られると思って。てきます」と出たものの、そこらへんで時間をつぶして帰ってきちゃったことがあったんですね。親に「どのせいにしてしまおうと思って、「○○くんが帰れとのせいらしてしまおうと思って、「○○くんが帰れとのたから帰ってきた」と言ったんですね。親に「どみの終わりごろ、朝練に行こうと思って、家を「行っみの終わりごろ、朝練に行こうと思って、家を「行っみの終わりごろ、朝練に行こうと思って、家を「行っ

無断で休んだので、先生から連絡がきて、親は私の言ったことをそのまま伝えたんです。そうしたら、運言ったことをそのまま伝えたんです。そうしたら、運育館で、みんなが練習している目の前で、親といっしょす館で、みんなが練習している目の前で、親といっしょすがで、みんなが練習している目の前で、親といっしょにすごく怒られました。

の先生は、さすがにちょっとおかしい」と思ってくれて、あんまり信じてくれなかったんです。やっぱり先生のほうが上みたいな考え方をしていて、わかっても生のほうが上みたいな考え方をしていて、わかっても以前から、親には「先生がイヤだ」と話していたん以前から、親には「先生がイヤだ」と話していたん

たようです。

ルは好きだし、葛藤がありました。じゃないという空気になって、でも、バスケットボーていいという話にはならなくて、部活を辞めればいいでも、そう思ってくれたところで、学校に行かなく

て、行かなくなりました。明けには、そもそも学校に行くこと自体がイヤになっに行けば、基本的にその先生がいる。それで、夏休みだったんです。だから、部活を辞めたところで、学校だったんです。だから、部活を辞めたところで、学校

奥地 行かなくなって、親はどうだったんですか?

いという選択を知らなかったし、親も知らなかった。リしていたように思います。そのときは学校に行かなす。

奥地 そのころ、自分のことをどう思っていましたか。

本田

学校に行かなくなってよかったという気持ちが

わりと自分は気楽だったかなと思います。で、「別に日本の学歴なんていらないし」と思っていて、にいるつもりはないと小さいころから思っていたの強かったように思います。あと、自分はずっと日本

ですか。 奥地 学校に行かないことで助かったなという気持ち

**本田** そうです。ただ、勉強をしないのはどうなんだ りかせで休んだくらいでも、ちょっと勉強がわからな りましたは、自分のなかにありましたね。1

奥地 家で勉強したんですか。

ど、その後は行きませんでした。 塾と適応指導教室、どちらが先だったか忘れてしまい塾と適応指導教室、どちらが先だったか忘れてしまい。 奥地

では、

思いますが、

来留未ちゃんが入会したのは2000年 シューレでの話をうかがっていきたいと ふたつ理由があって、ひとつは、働いている人

奥地 が「先生」というか……。 リタイヤした校長先生が、 やっておられたとか。

あと、 す。「ここで一生懸命勉強して、 ことをすごく幼い子どものように扱うというか、や 本田 ともと、新しいところに行くのがそんなに好きではな そういう空気を自分は感じとって、それがイヤでした。 た。それと、学校へもどそうという考え方だったんで でした。でも、 て、なんだか引いてしまいました。とくに先生がイヤ いタイプなところに、キャッキャしている子たちがい いわねえ」という空気だった。直接は言わないけれど、 さしく、やさしくしてくるのが、ちょっとイヤでし いっしょに通っていた女の子3人組がいて、彼 すごくぐいぐい来るタイプだったんです。も おばあちゃんというか年輩の人で、私の そこでイヤだと言えないのがストレス 学校へもどれるとい

たね。

になって、

2~3回で行かなくなったということでし

奥地 家では、 何をして過ごしていたんですか

に外に行くタイプではなくて、誘われれば行ってまし 本田 ているであろう時間帯は外に出なかったですね。 たけど、世間の目が気になって、みんなが学校に行っ だり、テレビを見たりしてました。もともと、そんな ゲームもちょっとはしていたし、マンガを読

「あっ、やばい」と思って、シュッと引き返した。そ と思います。 れで、もう外に出たくなくなったということもあった ですね。向こうが遠くから声をかけて来たんだけど、 を着て歩いている同級生に見つかったことがあったん に行く日がぶつかって、行く途中にぞろぞろジャージ 中学校のマラソン大会の日と、自分が適応指導教室

奥地なるほど。 けからですか シューレに来たのは、 どんなきっか

くて、 自分でも調べてみたんです。そうしたら、東京シュー 本田 ルとか不登校の本を図書館から借りて来ていたのを思 自分が学校に行かなくなってから、親が、フリースクー ると、そんなにやることもないんですよね。それで、 真を見つけて、「おっ、 レ王子のブログに、バスケットボールをやっている写 い出して、「フリースクールって何ぞや?」と思って、 家で半年ぐらい過ごしていたんですが、家にい 適応指導教室に行かなくなって、塾にも行けな ここなら」と思ったんです。

奥地 バスケの写真があってよかったね(笑)。

本田 たと思います。 よかった(笑)。そうでなかったら、行かなかっ

てく

受け 11 れ れる雰囲 気 が

> ないみたいな感じで、 るところは、ぜんぜん子どもがいなくて、大人しか ていました。 のかなあ。ここで勉強するしかないのかなあ」と思っ ら、つまらなくても、こういうところに行くしかない ところには、 彦田 それまでにも、地域のフリースペースみたいな いくつか行ったりもしていたんです。 それでも「自分は心の病気だか

うかがいたいと思います。シューレに来て、どんな印

で、真陸くんは2008年ですね。来留未ちゃんから

象でしたか。

過ごしていて、私もそこに入れたんです。みんながす 明日から通うんだ、ここに通いたい」と思うほど、 なかで過ごしているのを見て、「ああ、自分はここに ムしたり、 ごく楽しそうにしている。いっぱい人が来ていて、ゲー みんなが「誰か来た」みたいにならないで、ふつうに 人かが声をかけてくれて、自己紹介してくれて、でも、 ながなんとなく自分を受けいれている雰囲気です。 シューレに出会って、まず最初に感じたのは、みん 勉強したり、ほんとうに自由に同じ建物の

した。

思っていたのに、みんなが自由に好きなように時間と

場所を使って過ごしているのを見て、すごく安心しま

も、すごく罪悪感があって、こんな自分ではダメだと 家でひとりでテレビを見たり、 ていない自分は、笑うことも許されないと思っていて、 分にとってよかったんですね。 まず一番には、安心したんだと思います。学校に行っ

ゲームしたりしていて

「こんなところがあるから見に行ってみない」という けたいと思っていたのですか。それとも、お母さんが そのころは、家以外にどこか行くところを見つ 親にくっついてきたという感じですか。

というのが、まずありました。、近所の友だちと遊ん を言われたんだと思って、遊べなくなったんですね。 が何かわかってなかったんだけど、すごくイヤなこと なんじゃない?」と言われたことがあって、登校拒否 でたとき、「もしかして来留未ちゃんって、 遊ぶ相手がいなくて、すごく友だちがほしい 登校拒否

> に言っていたら、 に言っていたら、「IDECに行かない?」って母にそれで、友だちがほしいとか、文通相手がほしいと親 誘われたんです。

奥地 2000年と言えば、 た年だもの IDECを日本で開催

ミングだったのかなと思います。 シューレに行ったんです。それが自分にとってのタイ 行かなかったんです。それが夏のことで、秋に初めて いっぱい人が来る場所に行くなんて恐ろしいと思って 彦田 でも、いきなりいろんな国の人に会うなんて、

奥地 でしょうかね。 お母さんは、 IDECのことをどこかで見たん

彦田 私が通っていた精神科のクリニックみたい

する場。 り毎年開催されている、 International Democratic Education Conference:1992年よ 2000年には日本で開催された。 世界各地のオルタナティブ教育関係者が交流

てくれたということだったんですが、そこの先生が教 ころで聞いたんです。そこでは、何か治療を受けたと えてくました。 いうことではなくて、ただ遊んですごす時間をつくっ

# 勉強するところだと思ったら

んでしょう。 真陸くんは、 シューレでは、最初はどうだった

男の子たちが座っていて、「とんでもないところに来 をしていて、スタッフの女性のことを「オイ、ババア」 たとき、自分と同じ齢ぐらいの子が寝そべってゲーム たいな人がいて、ふつうに勉強しているものだと思っ 建物の外観は知ってたけど、中では机を並べて先生み てしまった」「僕はなんてところに来てしまったんだ」 と呼んでいて、横を見れば、ピアノのイスに超でかい ていたんですよね。でも、3階の扉をガチャッと開け もともと新しいところに行くのが好きではないし、 見学に行ったとき、最初はすごく緊張してまし

と思いました(笑)。

奥地 最初は、 ぱっと、そう思ったんだ。

本田 ここは、 やめておこうと思いましたね(笑)。

奥地 だけど、 なんで入ることにしたんだろう。

になりましたね。 もなく、べたべたもしてこない。それで、楽な気持ち シューレの人たちは、自分のことを放っておくわけで 応指導教室の女の子たちは、すごくグイグイきたけど、 上手に感じたんですね。それが2番目の印象です。適 いれてくれている感というか、距離の取り方がすごく きに、自分と同じ齢くらいの子がいて、やっぱり受け 地さんやスタッフとちょっと話して、5階に行ったと 本田 その後、「静寂の間」という小さな部屋で、

ということが、 のことを聞かれるのに、シューレではそれがなかった あと、自分の場合、どこに行っても、 自分のなかでは大きかったです。 最初に見た目

ただ、入会を決めたのは、「ここが大好き」とか、そんなにポジティブな理由ではなくて、どこか所属していなくちゃ感がすごく強くあって、をこかに所属していなくちゃ感がすごく強くあって、をうか」とか思うし、かといって、勉強も半年もしてろうか」とか思うし、かといって、勉強も半年もしてろうか」とか思うし、かといって、勉強も半年もしてろうか」とか思うし、かといって、をの人たちがイヤな人ではなかった。

## 中学年齢は家で過ごした

**奥地** シューレで、どんな過ごし方、どんな活動をし

いつかは学校に戻らないといけないんじゃないかとに入ってこないから、もうやめようと思って。最初は、つ、勉強もしようと思っていたんだけど、ぜんぜん頭を田 初等部のとき、最初はシューレの活動もしつ

思って通っていたんですよね。

いろいろタイムで、みんなで出かけるとか、何かつの疲れが出たんだと思います。それで、そこからホールが疲れたわけではなくて、学校で苦しんでいたものルが疲れたわけではなくて、学校で苦しんでいたものの疲れが出たんだと思います。それで、そこからホームシューレにしました。

**奥地** 家中心で、しばらくはやってみようかなと思っ

**彦田** なので、中学年齢は、ほとんど家で過ごしてま

ホームシューレの活動も、何かやりましたか。 奥地 家では、どういうふうに過ごしていたんですか

彦田 最初のうちは、ほんとうに疲れている状態で、

るまでには何年もかかりました。とか、そういうことがたびたびあって、それが癒されとか、そういうことがたびたびあって、それが癒され学校に行っていたときと同じように、夜、突然涙が出学校に行っていたときと同じように、

てじゃないと、そこで気づいていったんですね。学校の勉強だけがすべてじゃないし、学校だけがすべでも、その一方で、だんだん気持ちも癒えてきて、

シューレで見たように、ほんとうに生きていく力を身につけるというか、たとえば料理をするとか、生活身につけるというか、たとえば料理をするとか、生活気持ちが落ち着いてくると、いろんなことをやりたくなってきて、絵を描いたり、物をつくったり、ギターを弾いてみたり、昼夜逆転しながら、次々に、たくさんのことをやっていきました。

分にとって、けっこう大きい出来事でした。当時はをやりとりしたり、合宿に参加したりして、それは自交流誌)で知り合った友だちと文通をしたり、メールホームシューレのつながりでは、『ばるーん』(会員

に自信につながっていったような気がします。きるようになって、そこで友だちができて、だんだんて、やっと1年に1回ホームシューレの合宿に参加で外に出るだけでおなかが痛くなるような緊張感もあっ

**奥地** それで、もう一度、シューレに通う会員に、も

**彦田** はい。高等部に上がってからです。

奥地 それは、どういう気持ちからですか。

**彦田** 15歳になるとき、高校へ行こうかとも一瞬考えたんです。資格があることによって、自分の学びたい格のためだけに高校卒業資格を取るのは変な気がして、各れよりも自分は働くなかで学びたいと思って15歳のときに初めてアルバイトをしたのがきっかけでした。ときに初めてアルバイトをしたのがきっかけでした。

それから、また力がついてきて、実際に体力もつい

たことがありましたよね。 めい シューレでは、どんな活動をやりましたか。私 奥地 シューレでは、どんな活動をやりましたか。私

個人的に友だちと映像作品をつくったりしました。やっていったし、あとは、沖縄合宿を企画したりとか、彦田 はい。そういうことも、みんなで実行委員会で

**奥地** シューレのなかで、自分がどう変化したと感じ

りするなかでも、おたがいに伝え合っていく。そういんなでつくっていく。自分自身が全力でやって、誰かんなでつくっていく。自分自身が全力でやって、誰かと気持ちをすり合わせて、意見がかみ合わなかったと気持ちを

もっとやりたいと思うようになりました。う、それまでは心が疲れてできなかったことができて、

## 怖くて断れず合宿に

活動に参加しましたか。 奥地 真陸くんは、2008年に入ってきて、どんな

本田 最初のうちは、活動らしい活動はしていなかったですね。シューレに10時ぐらいに行って、1時ぐらたですね。シューレに10時ぐらいに行って、1時ぐらたですね。シューレに10時ぐらいに行って、1時ぐらにあるので行きませんかと、スタッフの方に言われたにあるので行きませんかと、スタッフの方に言われたんです。

参加して、九州をめぐるという合宿でしたね。 奥地 佐賀で全国子ども交流合宿があって、そこにも

本田 はい。そこに誘われて、僕は断ることができな

かったんです、スタッフが怖くて(笑)

奥地 だけど、行くほうがずっと怖いんじゃない?

が、ちょっとできなかった。 タッフというより、大人の意見を否定するということを明 目の前で「行きませんか?」と言われて、ス

**奥地** まだ、入ってまもなくだからということもあっ

いに思っていましたしね。 本田 合宿というのは、だいたいみんな行くものみた

奥地 学校文化では、そうだものね。

と言われてしまうかなあと思ったりして。本田(そう、そう。断ったら、「なんで来なかったの?」

₩ 奥地 実際、ほんとうに行きたくて行ったわけじゃな

本田

そのときは、

水俣のこととかには、

あんまり目

の? 10日間ぐらいだったですよね。かったんだ。それで、行ってみて、実際はどうだった

のかいって (笑)。 大田 楽しかった (笑)。 全国からないし、でも、こんないっぱい不登校がおる ないったくやだったというか、なんか不登校とか、よ

奥地 自分も不登校なのに。

本田 そう、そうなのね。3~4日すると、もう会話をしないという選択肢はないというか、10人以上の人と10日もいっしょにいたら、黙っているというのは不可能な話で、それで話してみたら、いろいろ話せるし、

ね。 奥地 シューレの子だけで、水俣にも行ったんですよ

覚えてます(笑)。 が向いていなかったですね。海で、溺れたりしたのは

**奥地** ほかには、どんな日常の活動をやっていたんで

本田 九州合宿が終わってからは、わりと話せるようになったというか、楽しく過ごせるようになりました。 リースクールフェスティバルの実行委員会とか、そう リースクールフェスティバルの実行委員会とか、そう バントが巨大すぎて、自分たちでつくっていると感じなかったのかもしれない。もう少し小さいフェスティバルだったら、子どもたち自身でつくれた感を、味わえたかもしれないですね。

奥地なるほど。

象を受けて、自分自身がイベントをつくる、物事をつ本田 大人がいろいろがんばったイベントみたいな印

そうだなって、ぼんやりと感じていたのはたしかです。表したり、いろいろやっているのを見て、わりと楽しちとか、まわりにいた人たちが、お絵描きしたり、発ちとか、まわりにいた人たちが、お絵描きしたり、発

奥地 ふだんは何をして過ごしていたのかな。

本田お話です。

## 不登校の子どもの権利宣言

うやって始まったものなんですか? 奥地 「不登校の子どもの権利宣言」というのは、ど

**彦田** 真陸くんも私も行ってないんだけど、いろいろ**彦田** 真陸くんも私も行ってないんだけど、いろいろのとき、案内してくれたボランティアの人から「君たちは学校にも行けて幸せだ。世界には恵まれない子

すよね。それを持ち帰って、シューレのなかで話し合ったんで

できてましたね。 奥地 「なんか釈然としないんだよね」と言って、帰っ

**彦田** それを聞いたとき、「じゃあ、日本の私たちの**彦田** それを聞いたとき、「じゃあ、日本の私たちの**彦田** それを聞いたとき、「じゃあ、日本の私たちの

奥地 これは自主講座で、週1回やってましたね。

ションするというのが講座のスタイルでした。 の権利条約をひとつひとつ読みといて、ディスカッとに関わってきた人で、佐藤さんといっしょに子どもを田 スタッフの佐藤信一さんが、子どもの権利のこ

#4 奥地 辞書を片手に、元の意味を調べたりしたそうで

すね。

**奥地** 講座は、どれくらい続いて、何人ぐらい参加し

本田 1年半です。人数は10人もいなかったですね。

彦田 7~8人ぐらいです。

ういう興味だったんでしょう。 もしろくなさそうで、1~2回はできても続かないよもしろくなさそうで、1~2回はできても続かないよ 奥地 子どもの権利条約って、ちょっと固そうで、お

本田 自分の場合、そもそも参加したのは、怖くて断

#### 奥地

それもそうなのっ

れなかったからで(笑)。

それも、まだ入ったばっかりのときで、「ちょ

うど始まったばかりだから出てみない?」と言われて、

出てみたのが最初です。はじめは小難しいし、そんな

に乗り気でもなかったんだど、いっしょに出ていた人

たちは中等部が多くて、

だから、まあいいかと。 ふだんいっしょにいる人たち

れが守られていたら、僕はこんなイヤな思いをしな これは学校でも守られてないなあと思ってみたり、こ それがよかった。それで、続けているうちに、

本田

奥地

仲間がいた感じなんですね

たと思います。 学校とは関係ないけど、これは守られ

ろも強く感じることができたから、ということもあっ に加えて、自分が差別を受けないとか、そういうとこ かったと思ってみたり。それと、学校に関連すること 不登校 50 年証言プロジェクト

てほしいなと。

自分たちの言葉を出し合って

奥地 来留未ちゃんの場合は、どうだったんでしょう。

彦田 が始まってから1年ぐらいして、権利宣言をつくろう 私は、実はあまり出ていなかったんです。講座

となって、その後の半年はボチボチ出てましたけど、 関わるようになったのは、この権利宣言をつくろうと

なってからでした。

奥地 権利条約の勉強は基本的なところで、そこから パッと思いついたそうです。それで、すごく意味があ かと思っていたところ、お風呂に入っているときに の実行委員長だった子が、 ですね。当時、シューレの会員で全国子ども交流合宿 つくることに踏み出すというのは、また一歩ちがう話 自分たちでオリジナルに不登校の子どもの権利宣言を おもしろいじゃないかと思って、 何か目玉になるものはない 講座に参加し

ている人たちに言ったら、みんな賛成してくれたんで、 そこから始まったと聞いてます。

彦田 われて、それなら参加したいという人が集まってきた 不登校の経験を社会に発信するものをつくりたいと言 そのとおりです。 自分たちの子どもの権利と、

奥地 実際、どうやってつくっていったのでしょう。

くイヤだったということを、自分たちの言葉で出し いうことはしないでほしいとか、こういうことがすご 人に伝えたいことを、とにかく出し合いました。こう 初めは、学校の先生や、自分の親や、身近な大

奥地 書き出したものは、どれぐらいあったんですか。

書き出していきました。

彦田 た。 その間にメンバーも変わって、 書き出していく作業だけで、何日もかかりまし いっぱい出した。

> えてないですが、何人かが大まかな柱を出して、そこ その後、どうやって骨組みをつくったか、ちょっと覚 だと思います。夏休みのあいだ、こればっかりやって から、みんなで削ったり、付け加えたりしていったん いました。

なと。 階でやるからカギを貸して」と言って、上に行くでしょ が難しいんだもの」って。 と聞いたら、「1条」と言うんですよ。「だって、言葉 くるのね。それで「今日は、どのぐらい進んだの?」 う。それからずっと5階にいて、夕方になって降りて 奥地 私が覚えているのは、朝、子どもたちが来て、「5 だから、相当苦労したのか

本田 苦労しました。

奥地 どういう点に苦労しましたか

言いたいことを出し合って、 本田 言葉の選び方が難しかったですね。自分たちの でも、最初は誰を対象に

そういうところが難しかったです。いほうがいい表現は使わず、どういう表現にするのか。のか。言いたいことの本質を曲げずに、あまり使わなするかが、あまり定まってなかった。誰を対象にする

**彦田** そうだね。5条の「比較して優劣をつけてはない」とか、書いていたんです。

葉は使わないほうがいいのではないか、とか。た。言葉が相手に与える印象とか、「自分」という言た。言葉が相手に与える印象とか、「自分」という言

## 共に生きやすい社会を

奥地 まとめるまでに正味40時間ぐらいかかったと聞

留未ちゃんが書いたんでしょうか?高く評価されて、広まっていきましたね。前文は、来いてますが、できたものは、弁護士や大学の先生にも

知ってほしいという思いが入っているのかなと。 の文は実行委員長が書いたのかな。自分たちの権利を してほしい」「~してください」と訴えているのでも なくて、「共に生きやすい社会をつくっていきません か」と書いたんです。それは、子どもと大人でつくっ か」と書いたんです。それは、子どもと大人でつくっ にいくという、シューレの基本にあるものを社会に りってほしいという思いが入っているのかなと。

て、そこでは、自分たちの体験や思いも書いてましたね。言に込めた思い」という文章もあわせて発表されてい奥地 この権利宣言では、「不登校の子どもの権利宣

うにするなよ。学校も行ってないのに」みたいなことえると、わがままになる」とか、「そんなに、えらそを田 思いや体験をつけたのは、「子どもに権利を与

を言われてしまったからなんですね。

も出さなければ、これは伝わらないと思ったんです。いということだったのに、それが伝わらないというもどかいうことだったのに、それが伝わらないというもどかれないという考え方にぶち当たってしまった。それでれないという考え方にぶち当たってしまった。それでれないという考え方にぶち当たってしまった。それでれないという考え方にぶち当たってしまったんです。

**奥地** この権利宣言を採択したのは、2009年8月、 東京の早稲田で全国子ども交流合宿を開催したときで あるかもしれない」という不安もあったけど、実際は、 あるかもしれない」という不安もあったけど、実際は、 ものすごい拍手だった。だから、壇上から降りてから ものすごい拍手だった。だから、壇上から降りてから

て、子どもたちを守っていくものをつくらなければと齢だったので、自分たちが大人になっていくにあたっぽ田 当時、私は19歳で、子どもの権利から外れる年

思ったんです。
思ったんです。
出ったんです。
れか、とんでもないものをつくってしまったという責任感がワッと湧きだして、拍手で採択されたと

思いました。と言われたとき、そういうことだったんだよなあ、とと言われたとき、そういうことだったんだよなあ、とて、「法律というのは自分たちを縛るものなんだよ」のちに大田堯先生(本プロジェクト#05参照)と会っ

ですか。 いうのは、ほんとうに責任が生じちゃったという感じいうのは、ほんとうに責任が生じちゃったという感じ奥地 あはは (笑)。とんでもないものをつくったと

**彦田** 伝えていかねばと思いました。

## ネットワークで広めたい

れぐらい経ってからだったでしょう。 ワークをつくったのは、権利宣言を採択してから、どいるネットワーク」をつくったんですかね。ネット広げるネットワーク」をつくったんですかね。ネットの思いから、「不登校の子どもの権利宣言を

**彦田** 1年半ぐらいだったと思います。

奥地 最初は、シューレや親の会の関係の集会で話すという。自分たちで集会を開いたり、ネットを使ったりした。自分たちで集会を開いたり、ネットを使ったりした。自分たちで集会を開いたり、ネットを使ったり

が多かったと思います。 自分たちで足を運んで、いろんな会に行って話すこと は、

奥地 おふたりとも、手ごたえはどうでしたか。

本田 手ごたえはありましたね。それまでに、こうい本田 手ごたえはあったものの、とくに学校関係の人たちは、りあげるエネルギーは相当なものだったと思う。ただ、りあいるエネルギーは相当なものだったと思う。ただ、

そんなにスムーズには理解されるものではなかった。そういう人たちに、いきなりこれをぽんと出しても、分たちも権利を持っているとはあまり考えていなくて、言葉も難しいし、おそらく同世代の子どもたちは、自言ないないような人たちは、好意的な感じではなかったていないような人たちは、好意的な感じではなかった

奥地 それで、工夫していたよね。

て、それはすごくよかったと思いました。 来てない子がいるからあげようかな」と言った子がい来てない子がいるからあげようかな」と言った子がい来てない子がいるからあげようかな」と言った子がいを配ったとき、「友だちに学校に

奥地 どれぐらいの数、話してまわりましたか。長野

本田 どれぐらいだろう、わからないなあ。

彦田 私たちが直接伝えるだけではなくて、できたら、 彦田 私たちが直接伝えるだけではなくて、できたら、

奥地 その人がつくればいいのにね (笑)。

で現実にぶち当たる感じがありました。

**奥地** このネットワークの活動は、何年ぐらい続けた のですか。シューレで始めた活動でしたけど、それぞ がんだん会員でなくなったりして、それでもしばらく だんだん会員でなくなったりして、それでもしばらく

います。2014年ぐらいまでだと思います。 本田 自分が大学2年生ごろまでは、やっていたと思

その後は、みんなそれぞれという感じですね。2015年ごろまでは集まって協議してましたけど、

いということで、いったん活動は終わりにしようかと。なって、あとはこれを知った人が活用してくれればい奥地 宣言をつくった人が広めていく活動は難しく

んだけど、難しかった。 いんですよね。いちおう報告するための文章は考えたいんですよね。いちおう報告するための文章は考えたいんだが、

## 自分たちの手を離れても

ていますよ。たとえば、東京シューレの説明会にはか奥地 でも、この宣言は、いろいろなところで使われ

をどう思っていますか。

本田 つくっているときは、正直、自分が何をしているかわかってなかったです。これが一体どうなるのかるかわからなかったし、言ってしまえば、最初は交流合らって、その後、いろんな方面から注目されて、そうなって初めて、自分がつくっていたのはこんなに大きなって初めて、自分がつくっていたのはこんなに大きなって初めて、自分がつくっていたのがと感じたんです。

**本田** 10年もこの宣言に関わるとは思ってなかったで

た。

**| 宣が力を持っている。** | **奥地** | 自分たちの手から離れて、あちこちで、この官

して闘っているというのは、これは胸が熱くなる。いにこの宣言を持っていった人がいるそうですね。シューレに関係しているとはいえ、自分のぜんぜん知らない人が、自分たちが10年前につくったものを手にいるというのは、 ご 学校との言い合

言を覚えちゃった子がいました。利宣言を1条ずつ貼ってあるんです。それで宣言の文奥地 うれしいよね。流山シューレでは、トイレに権

たこともありました。ミーティングを長引かせて(笑)、反発を買ってしまっティングで1条ずつやっていたら、ただでさえ長い本田 ただ、自分たちもシューレで失敗したのは、ミー

**彦田** 興味を持ってもらうのが難しいよね。

かならず権利宣言についてやってます。 木村 東京シューレ葛飾中学校では、日本語の授業で、

奥地 そうそう、毎年やっています。

本田 すごい。

## 歴史に残ることをやった

奥地 来留未ちゃんは、ふり返ってみて、どうですか。

**彦田** 自画自賛するなら、歴史に残ることをやったな

登校児童が悪いという根強い偏見を払拭し、学校・家校を『問題行動』と判断してはならない」とか、「不思ってます。いま、学習指導要領の総則にも、「不登奥地 そうね。私は、これは教科書に載ったらいいと

庭・社会が不登校児童に寄り添い、共感的理解と受容の姿勢を持つことが、児童の自己肯定感を高めるためにも重要」と書かれています。学習指導要領の総則は、すべての先生になる人たちは読まなきゃいけないし、教育委員会も読まなきゃいけない。学校復帰のみじゃなくて、社会的自立に向けて支援する、しかも子どもの意志を尊重するという、私たちが言ってきたようなことが入っているんですよね。

もちろん矛盾する点もなくはないけど、昔だったら絶対にありえなかったことが起きて、世の中が変わっ絶対にありえなかったことが起きて、世の中が変わっ絶対にありえなかったことが起きて、世の中が変わっれとか、学び・育ち方のあり方を選ぶとか、安心して休むとか、これがほんとうに保障されるためには、い休むとか、これがほんとうに保障されるためには、いたの学校教育法しかない制度では無理だよね、となっまの学校教育法しかない制度では無理だよね、となったんです。

休養の必要性や学校外の学びの重要性が明記されて、うにまではなっていないんだけど、でも一歩は進んだ。ただ、実際に成立した法律は、ほんとうに選べるよ

公民連携での不登校支援を打ち出されています。適応公民連携での不登校支援を打ち出されています。適応指導教室も、私たちのような「学校だけじゃないよ」を言ってきたところと連携するようになって、私たちめます。適応指導教室で、私たちが親の会をできるんめます。適応指導教室で、私たちが親の会をできるんの学校時代からは、ちょっとずつ変わってきているんですよ。一石を投じた波紋は広がって、意外と大きな力になっているんです。だから、教科書に載ったらいいかなと思っているんだけどね。

# 自分の心がいいと思える生き方を

うか。 
これからやりたいかなど、お話しいただけますでしょこれからやりたいかなど、お話しいただけますでしょ

就職する就職しないとか、いい悪いじゃなくて、したの創作活動をしています。学校に行く行かないとか、自分

たいけるさ」と、100パーセント自信をもって言えていけるさ」と、100パーセント自信をもって言えるわけじゃないけど、どうなるかわからないけれど、そういうに出ています。自分のペースで、自分の心がいいと思えるものでないと、自分は選んじゃダメなんだなあと思います。学校に無理して行けなかったように、社会思います。学校に無理して行けなかったように、社会に出てからも、自分が気持ちいいと思えるものを選びながら生きていこうと。それでいいんだと思えたのは、ながら生きていこうと。それでいいんだと思えたのは、ながら生きていこうと。それでいいんだと思えたのは、ながら生きていこうと。それでいいんだと思えたのは、ながら生きていこうと。それでいいんだと思えたのは、ながら生きていこうと。それでいいんだと思えたのは、ながら生きていこうと。それでいいんだと思えたのは、ながら生きていこうと。それでいいんだと思えたのは、ながら生きていこうと。それでいいんだと思えたのは、ながら生きていこうと。それでいいんだと思えたのは、ながら生きていこうと。

が、これはどんな思いを込めてつくったんですか。 奥地 ここに来留未ちゃんがつくった絵本があります

と思ってくれたらいいなあと。たとえば休んじゃいけ自分のほんとうの思いに従って生きていてもいいんだが、 こんだらじゅうの声』という本で、読んだ人が、

ね、ということを伝えたくて書きました。し、自分のしたいことをして生きていっていいんだより、笑ったり、自分の感情を出して生きていっていいがいないとか、就職しなければいけないと思って人生を歩ないとか、就職しなければいけないと思って人生を歩

描いていたのですか。 奥地 絵がステキですよね。絵は、子どものころから

をがったかなあって思います。
ムエデュケーションで、毎日毎日描いていたことがつけど、自分が好きで続けてきたことで、それこそホーけと、自分が好きで続けてきたことで、それこそホー

真陸くんはどうでしょう。 
東地 自学自習で絵の能力をつけちゃったんだよね 
奥地 自学自習で絵の能力をつけちゃったんだよね

### アフリカへ行きたい

本田 いまはフリースクールで働きながら、日本語教

9地 なんで日本語教師の資格を取りたいんでしょ

**本田** 本来はアフリカに行きたいから、大学院に行って、アフリカ地域に関する研究を専攻したかったんです。でも、結果が残念で、何かしら向こうで生きていす。を身につけたいと思って、ふだん使っている日本語を教える職業はどうだろうかと思って、日本語教本語を教える職業はどうだろうかと思って、日本語教本語を教える職業はどうだろうかと思って、日本語教

**奥地** アフリカに行きたいというのは、どうしてで

本田 幼稚園、小学校にさかのぼって、常に自分は自分の肌をからかわれてきたんです。でも、幼稚園のころに家族でアメリカへ旅行に行ったとき、アメリカの人は誰も自分のことをジロジロ見てこなかった。4~5歳のときでしたけど、自分がジロジロ見られるというのは、自分に何か悪いところがあったわけではないんだと初めて感じて、それからは、僕は絶対、将来はただと初めて感じて、それからは、僕は絶対、将来はただと初めて感じて、それからは、僕は絶対、将来はただと初めて感じて、それからは、僕は絶対、将来はただと初めて感じて、それからは、僕は絶対、将来はただと初めて感じて、それからは、僕は絶対、将来はただと初めて感じて、それからは、僕は絶対、将来はの歴史を学んでいくと、「おや、どうやらアメリカはあんまりいい国じゃないぞ」と思ったんです。

僕の進む道なんだ」と思って、そこから、将来はアフはとんどの人は、あまりお金もないし、アフリカに行ほとんどの人は、あまりお金もないし、アフリカに行いたのではなくて、つれて来られたのだから、アフリカに帰るべきであると主張した人たちがいて、僕はそれに感銘を受けたんです。「ああ、これがて、僕はそれに感銘を受けたんです。「ああ、これがアメリカでは、50~60年代にアフリカ回帰主義といアメリカでは、50~60年代にアフリカ回帰主義といアメリカでは、50~60年代にアフリカ回帰主義とい

リカに行きたいと考えて生きています。

したいと言ってましたね。 奥地 アフリカへ行って、子どものためのことを何か

本田 子どものためもあるんだけど、とくに若者の世代にエネルギーを注ぎたいです。たとえばアフリカで代にエネルギーを注ぎたいです。たとえばアフリカでそも学校がまだ足りてないから、不登校のことはさて

## 奥地 課題がちがいますよね。

本田 できることなら、いろんなところにいる黒人をアフリカに集めたい(笑)。ニュースを見ていたら、 
最近でもアメリカで、スターバックスで注文しないで 
立ってたというだけで、黒人が逮捕されていました。 
「もうやめようぜ、アメリカに住むの」って。いまなら、 
「もうやめようぜ、アメリカに住むの」って。いまなら、 
でもうやめようで、アメリカに住むの」。

を持つことが大事だと思うので。

たとえばアメリカでは、50年代にマルコムXが出ての考え方に賛同する人たちが出てくる。だから、自分のルーツに関心を抱いていない人たちも、私と誰かののルーツに関心を抱いていない人たちも、私と誰かののかしらのビジネスをしながら、バチバチのバトルを見ることによって、関心を持つことが、まずは大事なのではないかなと思っているんです。なので、は大事なのではないかなと思っています。

がら、自分らしく生きていこうというのは、感銘を受見ながら、自分のルーツや自分の原体験を大事にしな奥地 ふたりとも、ありがとうございました。社会を

けます。これからも、いままでの経験を大事にしながらやっていってください。黒人の差別と不登校の差別と本るところがあるかなと思います。かなりの時間なると感じるところがあります。おふたりとも、これからも自分なりの生き方を貫くことで、たぶん社会が変わると思います。今日はどうもありがとうございま変わると思います。今日はどうもありがとうございました。

## 不登校の子どもの権利宣言

#### 前文

私たち子どもはひとりひとりが個性を持った人間です。

みや思いを、十分に理解できない人たちから心無い言葉を言われ、傷つけられることを経験しています。 しかし、不登校をしている私たちの多くが、学校に行くことが当たり前という社会の価値観の中で、私たちの悩

不登校の私たちの権利を伝えるため、すべてのおとなたちに向けて私たちは声をあげます。

を尊重してください。そして共に生きやすい社会をつくっていきませんか。 おとなたち、特に保護者や教師は、子どもの声に耳を傾け、私たちの考えや個々の価値観と、 子どもの最善の利益

を選べる世の中になるように、 多くの不登校の子どもや、 苦しみながら学校に行き続けている子どもが、 今日この大会で次のことを宣言します。 一人でも自身に合った生き方や学び方

#### 一、教育への権利

者が、すべての子どもに教育を受けられるようにする義務である。子どもが学校に行くことは義務ではない。 私たちには、 教育への権利がある。学校へ行く・行かないを自身で決める権利がある。 義務教育とは、

#### 一、学ぶ権利

私たちには、 学びたいことを自身に合った方法で学ぶ権利がある。 学びとは、 私たちの意思で知ることであり他

## 者から強制されるものではない。私たちは、 生きていく中で多くのことを学んでいる。

## 三、学び・育ちのあり方を選ぶ権利

ないでほしい。 のように学び・育つかを選ぶ権利がある。 私たちには、 学校、フリースクール、フリースペース、ホームエデュケーション (家で過ごし・学ぶ)など、ど おとなは、学校に行くことが当たり前だという考えを子どもに押し付け

#### 四、安心して休む権利

に反して行かせるのではなく、家などの安心できる環境で、 私たちには、 安心して休む権利がある。 おとなは、学校やそのほかの通うべきとされたところに、 ゆっくり過ごすことを保障してほしい。 本人の気持ち

## 五、ありのままに生きる権利

はならない。歩む速度や歩む道は自身で決める。 私たちは、 ひとりひとり違う人間である。おとなは子どもに対して競争に追いたてたり、 比較して優劣をつけて

### 六、差別を受けない権利

係に制限を付けないでほしい。 例えばおとなは、不登校の子どもと遊ぶと自分の子どもまでもが不登校になるという偏見から、 不登校、障がい、 成績、 能力、年齢、 性別、 性格、容姿、 国籍、 家庭事情などを理由とする差別をしてはならない。 子ども同士の関

# 七、公的な費用による保障を受ける権利

権利がある。 学校外の学び・育ちを選んだ私たちにも、 学校に行っている子どもと同じように公的な費用による保障を受ける

が、高校に在籍していない子どもたちには保障されていない。例えば、フリースクール・フリースペースに所属している、 にしてほしい。 すべての子どもが平等に公的費用を受けられる社会 小・中学生と高校生は通学定期券が保障されている

# 八、暴力から守られ安心して育つ権利

私たちには、不登校を理由にした暴力から守られ、 暴力的な入所・入院などのあらゆる暴力をしてはならない。 安心して育つ権利がある。 おとなは、 子どもに対し体罰、

### 九、プライバシーの権利

おとなは私たちのプライバシーを侵害してはならない。

必ず意見を聞いてほしい。 をかけてくること、親が教師に家での様子を話すこともプライバシーの侵害である。 例えば、学校に行くよう説得するために、教師が家に勝手に押しかけてくることや、 私たち自身に関することは、 時間に関係なく何度も電話

# -、対等な人格として認められる権利

に考えなければならない。子どもが自身の考えや気持ちをありのままに伝えることができる関係、 学校や社会、生活の中で子どもの権利が活かされるように、おとなは私たちを対等な人格として認め、 環境が必要であ

# 十一、不登校をしている私たちの生き方の権利

い。それなしに、私たちの幸せはうまれない。 おとなは、不登校をしている私たちの生き方を認めてほしい。 私たちと向き合うことから不登校を理解してほし

### 十二、他者の権利の尊重

私たちは、他者の権利や自由も尊重します。

## 十三、子どもの権利を知る権利

ければならない。子どもの権利が守られているかどうかは、 私たちには、子どもの権利を知る権利がある。国やおとなは子どもに対し、子どもの権利を知る機会を保障しな 子ども自身が決める。

二〇〇九年八月二十三日 全国子ども交流合宿 「ぱおぱお」参加者一 #42 本田真陸さん、彦田来留未さん 不登校 50 年証言プロジェクト

本プロジェクトは寄付で運営し、すべての記事を無償で公開しています。 ご寄付のほど、よろしくお願いします。

郵便振替口座:00100-6-22077 加入者名:全国不登校新聞社

一口 1000 円/ 3000 円/ 5000 円

不登校 50 年証言プロジェクト http://futoko50.sblo.jp

#42 本田真陸さん、彦田来留未さん インタビュー日時:2018年4月25日

聞き手:奥地圭子、木村砂織

場 所:東京シューレ葛飾中学校

まとめ:奥地圭子 写真撮影:木村砂織

記事公開日:2018年7月5日

編集・発行:全国不登校新聞社

© 2018 Zenkoku Futoko Shimbun sha

東京編集局(関東チーム事務局) 〒 114-0021 東京都北区岸町 1-9-19 TEL:03-5963-5526 / FAX:03-5963-5527 E-mail:tokyo@futoko.org

大阪通信局(関西チーム事務局) TEL:050-5883-0462 E-mail:osaka\_c@futoko.org ◇本プロジェクトにおける用語の取り扱いについて

「不登校」を意味する用語は、長い年月のあいだに、「学校恐怖症(school phobia)」「登校拒否(school refusal)」「学校嫌い」「不登校」など、さまざまな用語が使われてきました。立場や人によって、その言葉の使い方や、意味するところが異なります。不登校50年証言プロジェクトでは、統一した用語に整理するのではなく、話し手の文脈に即して使うこととするのではなく、話し手の文脈に即して使うことと